

I 計画の考え方

1 計画のめざすもの

地域に暮らす誰もが健康で幸せな生活が送れるように、身近な生活課題を、区民・団体・事業者・行政が協働して解決できる「しくみ」をつくり、地域における福祉保健の推進を図ります。

私たちの暮らしの環境は以前に比べ大きく変化してきています。少子高齢化はもとより核家族化、情報化が進み、地域のつながりが希薄になる中で、価値観や生きがいは多様化し、生活する上での課題は複雑になってきています。最近のテレビや新聞などではさまざまな事件が報道されていますが、その背景には、育児や介護の不安、青少年の将来の不安、働き盛りのストレスなどさまざまな要因があるのではないのでしょうか？

一方で、ボランティアやNPOの活動などが活発化し、生活課題に対する新しい活動の展開も見られます。そのような状況の中で、障害のある人や高齢者など、支援を必要とする人や子育て中の人、外国籍の人や青少年、働き盛りの人も含め、一人ひとりがその力と役割を十分に発揮し、不安を少なくして安心して幸せに暮らすために、思いやりをもって支え合える「しくみ」をつくる必要があります。

(1) ねがい ～ふだんのくらしのしあわせの実現をめざす～

「この磯子に住み続けたい」

多くの区民は住み慣れたこの地で安心して住み続けたい、という気持ちを持っています。一人ひとりが抱えている不安や心配ごと、困りごとを何とかしたいと思っているのではないのでしょうか。福祉は困っている人だけのものと捉えないで、「その人らしく」日常生活を送ることができる、私たちの「ふだんのくらしのしあわせ」の実現をめざすのがこの計画です。

「私たちが変える磯子のまち」

まず自分でできることは自分でやる「自助」、隣近所や支援グループ等が共に助け合う「共助」、法制度と基盤整備を行政が行う「公助」、この3つがうまく組み合わせられ確かな支えになるよう、私たちの力で磯子のまちを変えていきましょう。

そのために、私たち区民・団体・事業者・行政がそれぞれの役割を明確にしながら、連携し協働で地域福祉保健を進めていくことが求められます。

この計画は「社会福祉法」の地域福祉の理念に基づく行政計画ですが、磯子区では地域でのしあわせな生活は健康の課題とも深く関わりがあると考え、名称を「地域福祉保健計画」としました。

ひとくち解説

区民

磯子区に在住・在勤の方

団体

自治会・町内会・活動グループ・
社会福祉協議会など

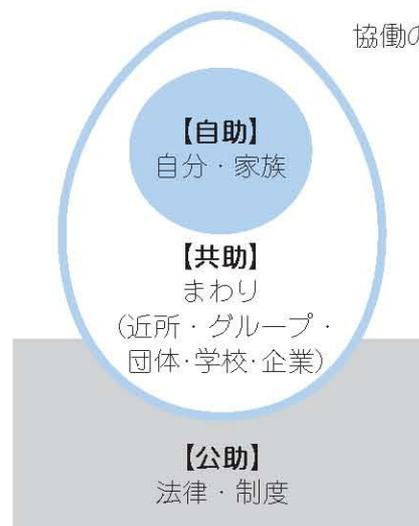
事業者

保健・医療・福祉機関
商店や一般企業、NPOなど

行政

磯子区役所、公立保育園・
学校などの横浜市の機関

協働のイメージ



(2) 理念 ~ひとりからお互いへ、そしてみんなまで~

1 一人ひとりが尊重され、 その人らしく暮らせるまち

お互いの「違い」や「多様性」を理解しあい、「わたしらしさ」「そのひとらしさ」が大切にされる暮らしをめざしましょう。

2 お互いに育ちあい、 支えあっていけるまち

誰もが持ち味を活かして支えあい、それが大きな力となることをめざしましょう。

3 安心して心地よく 住み続けられるまち

自分たちの「強さ」「弱さ」を知り、課題だと感じていることを共有し、改善や問題解決に向けてみんなで行動を起こして、暮らしの安心につなげていきましょう。

(3) 目標

1 自発的な地域活動が連携して展開される

さまざまな自発的活動と、地域に根付く自治会・町内会の活動が緊密に、重層的につながって、地域を支える力となり、実りを結ぶようになることが目標です。

2 誰もが人とふれあえる場をもち役割を担う

一人ひとりが尊重され、誰もが「居場所」と「役割」がある、そのことによって自分を尊重できる気持ちや誇りをもてる地域を作り出すことが目標です。

3 誰もが気軽に相談でき、必要なサービスを受ける機会につながる

悩みなどを受け止め一緒に解決に取り組むような「相談」と「情報」のシステムをつくること、それは「安心」をつくることであり、区民・関係団体・事業者・行政が協働して取り組む目標です。

4 身近な課題が地域の取り組みで解決できる

暮らしに密着した問題が起きるのも、解決する資源を持っているのも身近な地域です。地域の方々がこれらの課題を解決する力を発揮できるようにすることが目標です。

2 計画の位置づけと策定の経過

(1) 計画の位置づけ

磯子区地域福祉保健計画

磯子区地域福祉活動計画と一体化

横浜市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画

横浜市障害者プラン

横浜市次世代育成支援行動計画

横浜市青少年プラン

健康横浜21(健康日本21に基づく健康づくりの計画)

磯子区まちづくり方針(ハード面を中心としたまちづくり計画)

対象者別計画

磯子区地域福祉保健計画は、対象者別の基盤整備のための計画やまちづくり計画をつなげ、福祉保健を中心にソフトの領域をテーマとする総合計画です。

(2) 「磯子区地域福祉保健計画」と「磯子区地域福祉活動計画」の一体化

磯子区社会福祉協議会では区民の自主的・自発的な福祉活動の指針となる行動計画として平成8年度から17年度までの10カ年の長期計画である磯子区地域福祉活動計画「ふれあいコスモスプラン」を策定し、その基本計画に沿って事業を進めてきました。

今回新たな活動計画策定の年にあたります。「磯子区地域福祉保健計画」と「磯子区地域福祉活動計画」は、共に地域福祉の推進を目的としていることから、両計画の基本理念・目標、区民の活動に関する内容を共有し、区民の参加を得ながら行政と社会福祉協議会が協働し一体的に策定し、推進します。

(3) 計画の目標期間(2006年度～2010年度)

本計画は、平成18年度からの5ヶ年計画とし、目標年次を平成22年度とします。

ひとくち解説

◆社会福祉協議会とは

社会福祉協議会は、地域における様々な福祉の課題を解決していくために、地域福祉に携わる諸団体で構成されている民間組織です。

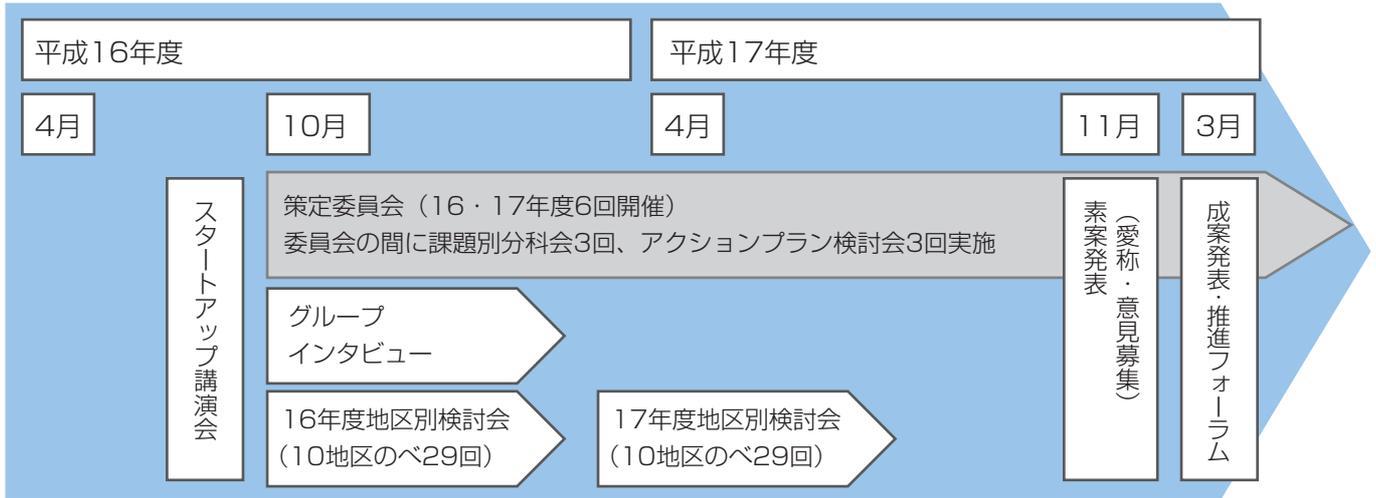
《地域福祉の推進役として》

ボランティア活動など市民の主体的な活動の推進や福祉の担い手の育成、福祉の啓発や福祉理解の促進、援護を必要としている方々への自立の支援、当事者や福祉団体のネットワークづくりなど様々な事業を行っています。

◆地域福祉活動計画とは

地域福祉活動計画は、地域社会を構成するすべての人々が地域における様々な課題や問題を解決し、福祉のまちづくりを進めるための活動を展開する上での行動計画となるものです。社会福祉協議会が、社会福祉法で位置付けられている地域福祉の推進役としての役割を果たすための活動の方針とするものです。

(4) 策定経過



- 磯子区地域福祉保健計画策定委員会

策定委員は公募を含めた区民の代表、学識者、区役所職員の計20名で構成され区長が委嘱をしました。区民の意見・提案をもとに、計画策定のために検討を重ねてきました。

- グループインタビュー

磯子区が抱える課題や区民の生活課題を把握するため次の団体にインタビューを実施しました。

育児サークル／子育て支援者／国際ママ会参加者／児童虐待問題連絡会／根岸中学校生徒／洋光台第二中学校生徒／中学校生徒指導専任教諭／青少年指導員／体育指導委員／聴覚障害者／視覚障害者／脳性麻痺障害者／肢体障害者／障害児の親の会／精神障害者生活支援センター開設準備学習会／老人クラブ／介護者の集い参加者／医師会／歯科医師会／薬剤師会／訪問看護師／ケアマネジャー／ホームヘルパー／保健活動推進員／ヘルスメイト／ボランティア部会／生涯学習活動者／商店街連合会／磯子事業会／在宅介護支援センター職員／福祉保健センター職員／他

- 地区別検討会

10地区でのべ58回開催し、各地区の地域特性、身近な生活課題などについて話し合い、課題解決に向けて地域が重点的に取り組むテーマを決めました。

- 計画素案に対する意見募集

平成17年11月1日に本計画の素案を発表し、意見と計画の愛称を募集しました。その結果51件の意見をいただき本計画に反映しました。また愛称については92件の応募をいただきました。



3 磯子区の特性と課題

(1) 磯子区の特性

地形・環境

磯子区は南北に長く、根岸湾に面した平地とそれを囲むように広がる丘陵地で、南西部には大岡川があります。氷取沢市民の森、峯市民の森、丘陵斜面の樹林地など、緑が比較的残っています。

まちの成り立ち

昭和30年代から始まった根岸湾の埋め立てにより、企業が進出し一大工業地帯が出現。それに伴い、従業員の住まいを確保するため、丘陵部で大規模団地の開発が進みました。

交通

低地では鉄道、幹線道路が比較的充実していますが、丘陵部はバスに頼らなければならないなど、交通が不便な地域もあります。

人口構成

昭和35年から15年で人口は約2倍に増えましたが、平成3年をピークに減少が続いています。平成17年9月現在の人口、世帯数は約16万6千人、約7万世帯で、一世帯あたりの人口は2.3人。65歳以上の高齢者の割合は19.1%で増加傾向、15歳未満の年少人口割合は12.4%で減少傾向にあります。

歴史・文化

鎌倉時代に由来のある場所や、重要文化財がある寺社、杉田梅などがあり、歴史のあるまちです。

* 磯子区まちづくり方針、平成17年度住民基本台帳による統計、地区別検討会参加者からの意見<抜粋>から作成

(2) 調査で出された磯子のまちの生活課題

● グループインタビューで出された課題（要約）

グループインタビューでは、共通の課題やニーズを持つ人、また活動を同じくする人の少人数グループで井戸端会議風にいろいろな意見を本音で話していただきました。普段なかなか言い出せなかったり、届きにくい声を聴きました。

◆健康・生きがい

- ・健康相談・メンタルサポートなどの体制づくり
- ・社会活動、ボランティア活動の推進
- ・老人クラブを始めとした社会貢献的活動の推進
- ・高齢者パワーの発揮のしくみ

◆地域連携・交流

- ・グループ、団体の連携推進
- ・医療・福祉のネットワーク化
- ・トータルな相談窓口の設置
- ・生涯学習グループと地域の関係づくり
- ・商店街、学校、事業者と地域との関係
- ・既存施設の活用法
- ・世代間交流ができる祭りなどの地域行事の活用

◆場づくり

- ・活動の拠点が不足
- ・空き店舗の空間活用
- ・企業の施設やスペースの開放
- ・中学生の集える場所
- ・子育て支援やサロンの場所
- ・障害のある人、高齢者、外国籍の人の集える場所（居場所）

◆人材育成・発掘

- ・次世代育成
- ・地区ボランティアの担い手育成
- ・子ども、退職者、高齢者、障害のある人の参加のしくみ（学校との連携）
- ・バリアフリーの啓発
- ・趣味、生涯学習活動とボランティア活動
- ・学校との連携
- ・活動を支えるコーディネーター

◆情報受発信

- ・緊急時、災害時の要支援者の情報把握
- ・様々な行政情報の整理と提供のしくみ
- ・インターネットのさらなる活用
- ・情報の共有化、システム化
- ・地域ケアプラザなどの施設の役割を明確にするための効果的なPR

◆環境改善・向上

- ・ゴミの分別、ゴミ出しのマナー
- ・高齢者、障害のある人の施設不足と終の棲家の不安
- ・公園、遊び場などの生活環境
- ・バス、駅、道路などの交通、移動環境

● 地区別検討会で出された課題（要約）

地区別検討会では小グループでの話し合いを通じて「あらためてこの地域の良さを再認識できた」という声のように、身近な地域の活動や課題についての認識を深めることにつながりました。

◆健康 <ul style="list-style-type: none"> ・介護予防、生活習慣の見直し、健康づくり ・生きがいとしての学びの場づくり 	◆子ども・青少年 <ul style="list-style-type: none"> ・子育て環境・子育て支援の関わりづくり ・青少年の集える場所（居場所）づくり 	◆高齢者 <ul style="list-style-type: none"> ・ひとり暮らし高齢者の孤独、見守り ・元気、生きがい、外出支援、出かける・集まる楽しい場所
◆障害のある人 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の中での理解と交流 ・同じ地域住民として参加できるイベントや活動 	◆人材・ボランティア <ul style="list-style-type: none"> ・地域活動の人材不足、リーダーの担い手不足 ・人と人、活動と活動をつなぐコーディネート 	◆地域のつながり・連携・交流 <ul style="list-style-type: none"> ・人と人とのつながりの再構築 ・地域の社会資源のネットワーク ・地域がひとつになるようなイベント・交流
◆活動の場 <ul style="list-style-type: none"> ・公的施設の利用のしやすさ、開かれた運営、開放 ・活動の拠点づくり、既存資源の活用、開放 ・気軽な場、よりどころとなる場 	◆情報 <ul style="list-style-type: none"> ・個人に情報が届くシステムづくり ・親しみやすい広報手段、PRの工夫 ・福祉保健情報の共有化、ネットワーク化 	◆防災・防犯 <ul style="list-style-type: none"> ・近隣の声かけ、防犯パトロール ・日頃からの人間関係づくりと防災意識 ・障害のある人、高齢者の把握の方法
◆道路・交通 <ul style="list-style-type: none"> ・道路・交通などの安全 ・バス路線などの移動手段とバリアフリーの整備 	◆マナー <ul style="list-style-type: none"> ・ゴミの不法投棄、分別 ・ペットの飼い方 	◆地域特性 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の歴史や伝統文化の尊重と継承 ・公園、遊歩道、親しめる自然環境、景観の保存

● 健康づくりアンケートの結果（一部抜粋） <平成17年3月実施>

磯子区健康づくりアンケートは、区民の健康づくりに関する意識や実態把握をするために行いました。

○健康についての磯子区民の意識と健康状態

- ・「今健康だと感じている人」は81.1%、「健康のために気をつけている人」は69.5%にのびりました。
- ・「現在持っている症状や病気」の第1位は肩こり、第2位は腰痛、第3位は睡眠不足でした。

○健康診断の受診について

- ・「健康診断を毎年受けている人」は62.1%、受けなかった人の理由の第1位は「時間がない」ことでした。

○今後の健康づくりに期待すること

- ・「まちの健康づくりに関心がある」と答えた人は41%いました。「参加しやすい時間帯」は年代により違いが見られました。
- ・情報入手方法では、「広報および回覧板」が約半数で、知りたい情報の第1位は「公共施設情報」、第2位は「医療機関情報」でした。

☆多くの人がより健康な生活を送るために身近な健康づくりの機会を増やし、必要な情報が十分に伝わるしくみをつくる必要があります。

● 磯子コスモスリサーチ（区民満足度調査）の結果（一部抜粋） <平成16年9月実施>

横浜市が行っているサービスや業務について満足度と重要度のアンケートを行ったところ、違法駐車、防犯対策、まちの美化、環境対策、災害対策、青少年施策、水質改善、病院・救急、道路・歩道については、重要度が高いにもかかわらず満足度が低いという結果になりました。

☆グループインタビューや地区別検討会で出された課題と共通する項目が多くありました。